



優れた、より良い福祉コミュニティをめざして

ふれあいネットワーク

まほろば

社協広報

第37号



【写真】 いちいの里・ふるさと体験学習から（5月16日撮影）

「赤ちゃんの服って大変だよな～」

—人形相手だけど、ボクたち奮闘しています—

「ふるさと体験学習」で赤ちゃんやデイサービス利用者とは交流した鉢盛中学校1年2組の皆さん。この日、赤ちゃんとは交流したグループは、抱っこしながらマシュマロのような赤ちゃんの肌を体感しました。「みんなこんなにちいさかったんだよね」と命の尊さを学んだ一日となりました。

まずはその前に、人形を使って予行練習!!ということで、着替えのしかたやおむつのあて方などを保健師さんから教えていただきました。

（詳しくは4ページに）

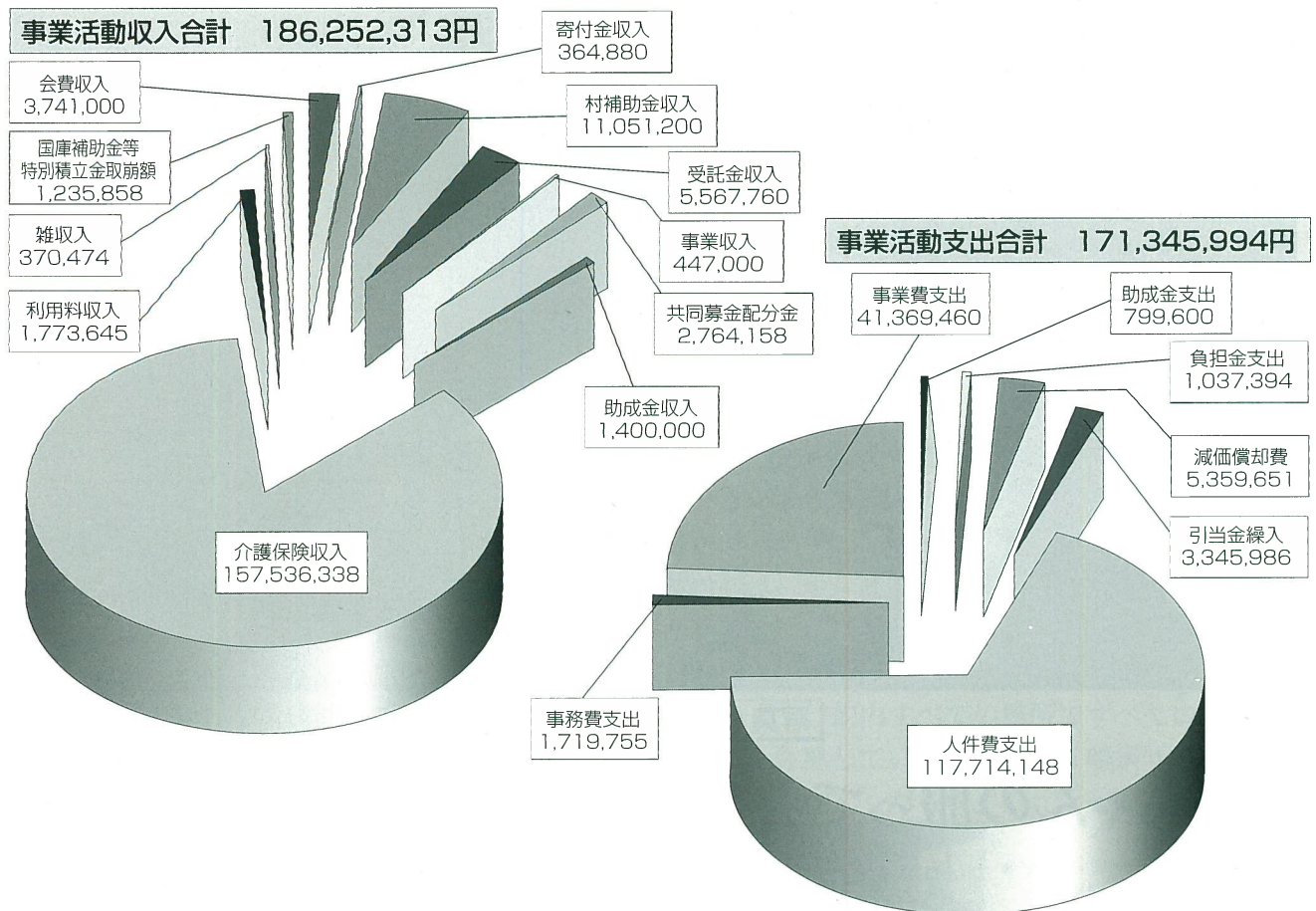
平成18年度一般会計決算概要報告	1
平成18年度助成金交付事業の概要	2
まほろばトピックス～よもやま話～	3・4
あなたに知ってほしい「ファミリーサポート」	5・6
デイサービスセンターいちいの里が変わりました!	7

平成18年度 山形村社会福祉協議会一般会計決算概要報告

5月29日、保健福祉センターで、山形村社会福祉協議会評議員会（平成19年第2回）を開催しました。会議では、平成18年度の事業報告並びに一般会計決算報告等について審議され、それぞれ了承されました。主な収入実績として、介護保険収入の増等により、前年度より収入増となりました。支出実績としては、建部の里開所等事業拡張に伴う人件費や事業費、減価償却費がそれぞれ増額となった結果、2,900万円程の支出増となりました。

以下、山形村社会福祉協議会の一般会計決算の概要を報告します。

平成18年度 山形村社会福祉協議会一般会計事業活動収支の部 概要



*収支科目の数値は、平成18年度事業活動収支計算書より抜粋

付記 山形村社会福祉協議会会員の会費収入を財源とする支出内容

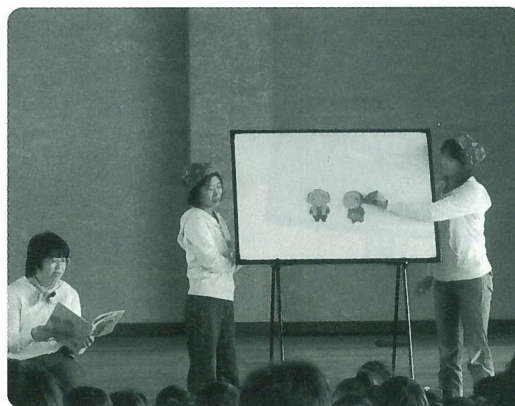
- ◆ 福祉講座開催費 ◆ 福祉啓発費（山形村福祉のつどい開催費等）
- ◆ 福祉団体等助成金（地域福祉団体等助成金・社会福祉協力校事業助成金）
- ◆ 慰霊祭の斎行等
- ◆ 地域福祉活動費（地域ふれあい交流事業、在宅介護者リフレッシュ事業費他）
- ◆ 障害者ホームヘルプ事業 ◆ タイムケアサービス事業 他

平成18年度 助成金交付事業の概要

山形村社会福祉協議会の会費財源または共同募金配分金を財源にして、下記の団体に対し助成金を交付しました。

地域福祉団体等助成金 (財源 社協会費)

○山形村身体障害者福祉協会	助成金額 132,000円
○山形村知的障害者育成会	助成金額 90,000円
○山形村遺族会	助成金額 90,000円
○傷痍軍人会山形支部	助成金額 20,000円

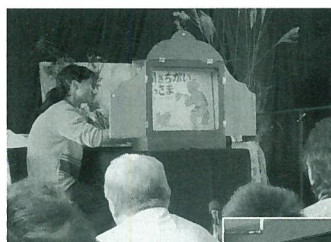


▲クレヨンママ

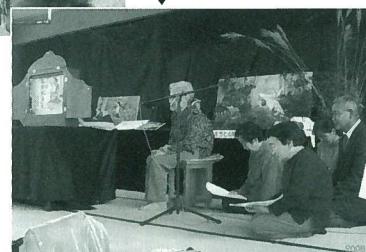
指定地域福祉活動支援事業助成金 (財源 共同募金)

【一般指定活動】

○山形村子ども会育成会	助成金額 25,000円
○人形劇サークルてぶくろ	助成金額 25,000円
○山形村ゲートボール協会	助成金額 25,000円
○かたくりの会	助成金額 25,000円
○クレヨンママ	助成金額 25,000円
○「共に生きる」を考える会てまり	助成金額 25,000円
○山形村食生活改善推進協議会	助成金額 25,000円
○しゃぼん玉塾	助成金額 19,800円
○上大池老人クラブ	助成金額 25,000円
○親育ちの会	助成金額 25,000円
○やまのこ共同保育園	助成金額 25,000円
○知的障害者授産施設共立学舎	助成金額 22,800円
○民話クラブ 灯	助成金額 25,000円
○小坂ゲートボールクラブ	助成金額 25,000円
○森林・林業・林産業活性化議員連盟 他協力者みどりの少年団	助成金額 25,000円



◀民話クラブ 灯



◀山形村食生活改善推進協議会



▲人形劇サークルてぶくろ

社会福祉協力校事業助成金 (財源 社協会費)

○鉢盛中学校	助成金額 50,000円
○山形小学校	助成金額 50,000円

山形村社会福祉協議会理事・監事・評議員名簿

(平成19年4月1日現在)

理事

清 沢 實 視 (会 長)
 逢 澤 佳 丸 (副会長)
 瀬 川 祐 司 (副会長)
 福 澤 倫 治 (副会長)
 山 口 隆 也
 上 條 重 幸
 和 田 大 生
 大 池 正 之
 平 沢 恒 雄
 永 田 勝 男

野 口 壽 昭
 中 村 一 博
 相 渡 さ ゆ り
 瀬 川 久 幸

監 事

三 枝 一
 上 條 文 夫

評 議 員

唐 沢 完 治
 百 瀬 脩
 笹 川 武 清
 熊 谷 久 子
 塩 原 洋
 小 林 嘉 宣
 宮 本 美 鶴
 籠 田 豊 里
 住 吉 す み
 前 田 愛

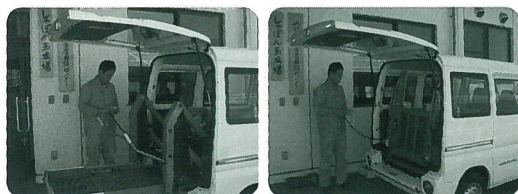
森 井 英 子
 神通川長子
 宮 沢 勲
 土 田 朋 子
 横 水 美 佐 子
 松 岡 昇
 大 久 保 美 知 子
 青 沼 道 子
 堤 洋 子
 上 條 恵 津 子

塩 原 眞
 野 村 俊 介
 上 條 勝 健
 中 村 健 人
 清 沢 善 人
 百 瀬 泉
 永 田 博 秋
 上 條 智 佐 雄



しゃぼん玉塾へ福祉車両を貸与

6月1日、村障害者等共同作業所・しゃぼん玉塾（大池幸一郎所長）で福祉車両貸与式が行われました。福祉車両は、山形村社会福祉協議会が県共同募金会の配分事業を利用して購入しました。リフト付きの軽自動車で、車椅子の利用者が乗降しやすくなっています。大池所長は「車椅子を使っているメンバーが気兼ねなく一緒に出かけられるようになる」とこれからの活動に期待をされていました。



講師
山岸 勝子氏

ボランティア養成講座 開催！

「ボランティアって何？」「やってみたいけど、どんなボランティアがあるの？」……そんな住民の皆さんの声に応じて、ボランティアを始めようとしている方、初心者の方を対象にした養成講座が始まりました。これは、山形村社会福祉協議会に置かれている「山形村ボランティアセンター」が、地域で展開されるボランティア活動や、高齢者・障害者のことについて理解を深めていただくことと企画したものです。



▲ワークショップ（いちいの里研修室にて）

7月12日に行われた開講式に集まったのは、事前に申し込みをいただいた25名の皆さん。女性が大半でしたが、幅広い世代の方々が参加してくださいました。開講式に続いて、松本市社会福祉協議会四賀地区センターの山岸勝子氏を講師に迎えた第1回目の講義が始まりました。「地域とボランティア」と題した講演に続いて、ワークショップ。自分にとってボランティアとはどんなものなのか、自分が持っているもの・できることは何か、といったテーマで、グループ討議を行いました。参加者の皆さんは、ときおり講師に質問をしながら議論を深め、和気あいあいとした中にも有意義な時間を過ごされたようでした。

この「ボランティア養成講座 初級編」は、講義だけではなく実際のボランティア体験もカリキュラムに含まれており、9月まで全5回の予定で開かれます。



◀▲皆さんいきいき談論風発

ふれあうことって、あったかい。 中学生が「ふるさと体験学習」



5月16日、鉢盛中学校1年2組の皆さんがいちいの里を訪れ、乳児やデイサービス利用者と交流しました。午前中、乳児と交流するグループは保健師さんから指導を受け、乳児について学びました。人形を使って、だっこのしかたや着替えのしかた、おむつのあて方などを教わり、真剣な表情で取り組んでいました。また、妊婦体験をして、妊娠されている方がどれだけ大変かを学びました。女子生徒ばかりでなく男子生徒も体験し、大変さを実感したようです。

午後には、実際に赤ちゃんともふれあう時間がありました。午前中に教わったことを活かして、いざ！……あれ？ どのように接したらいいの……？ さすがに最初は戸惑ってしまったようですが、お母さん方から「赤ちゃんを抱いていいよ」と促され、そっと手を伸ばし、優しく抱いていました。

生徒たちは「赤ちゃんにも個性があることを知ることができた」「思っていた以上に重かった」「子育ての大変さがわかった」「幼稚園の先生が私の夢。この体験で夢に一步近づけた」と感想を話していました。

この日は、他にもデイサービス利用者との交流や、清掃などの奉仕活動、アイマスクや車椅子体験をしました。

どの体験をした生徒も心に残る学習ができたことと思います。いつまでも「相手のことを考える」優しい気持ちを持ち続けてくださいね。

中学生の皆さんが感想の作文を寄せてくれました。その一部を抜粋してご紹介します。

塩原奈留さん

にんぶ体験で、意外と重たくてびっくりしました。私たちがふだんやっている、くつ下をぬいだりはいたりするだけでも、こんなに大変なものとは思いませんでした。今回、この福祉交流をして、赤ちゃんやお年寄りの方について興味がわいてきました。貴重な体験をありがとうございました。

藤沢紫衣さん

私は少し不安でした。でも、おじいちゃんやおばあちゃんは、私のしようとしていることとかをしっかりと受けとめてくれたようで、うれしかったです。私もその気持ちを受けとめて、それに応えられるようにこれからがんばらなくちゃいけないんだと、その時思いました。だからこれからも、色々なことに努力していこうと思います。



▲妊婦体験の様子



◀練習だけど、なんだか緊張

塚田倫江さん

赤ちゃんの人形と、本物ではすぐちがいました。人形では、ずっしりと重く感じたけれど、本物はふわっとした感じであんまり重くとは思いませんでした。一人一人の赤ちゃんが、たった一人の人だから大切であり、たった一つしかない命なんだということが、わかってよかったです。そして、命の重さが赤ちゃんの重さなのかなと思いました。赤ちゃんともふれあい、赤ちゃんのお母さんとも話して、教えてもらったことがたくさんありました。

小林雄渡さん

今まで、会話をしたことのないお年寄りの方と接することがありませんでした。「言葉づくりゲーム」をやっているうちに、だんだん会話ができるようになって、うれしかったです。実際に車イスに乗ってみて、車イスを使っている人の苦勞もよくわかりました。お年寄りの方が困っていたり、車イスに乗っている人が大変そうにしていたら、今回学習したことを生かして対応していきたいです。



◀ちよつとこわごわ抱いています



あなたに知ってほしい 「ファミリーサポート」

わたしたちは日々生活する中で、自分も頑張り家族や親戚が支えてくれるけれど、どうしても同じ地域で生活する人たちの協力が必要だという時があります。

そんな時、気軽に頼める人がいたら、本当に助かります。「ファミリーサポート」は、「子育てを援助してほしい人」と「子育てを援助したい人」を会員として互いに助け合い、支え合うことを目的に考えられた互助制度です。

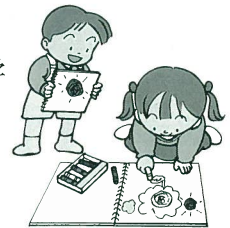


◀ みんなで支えるファミリーサポート

依頼会員

山形村に在住しているか、または通勤している0歳から小学校就学児童までのお子さんをお持ちの方。

所定の依頼料金を支払います（※試行期間中は無料です）。



協力会員

自宅もしくは所定の場所に出かけて、安全に子どもの世話ができる方。資格や経験は問いません。

コーディネーターから依頼を受けて、支援活動を行います。

子育てや子育て支援をテーマとした講習会に出席していただきます（※講習会の詳細については別途ご案内します）。

両方会員

依頼会員と協力会員の両方を兼ねることができます。

※会員登録時に保険に加入しますので、安心して活動していただけます。

★登録の手続き

- ① 「ファミリーサポートやまがた」の活動内容について詳しい説明を受けます。
- ② 「ファミリーサポートやまがた」の会員登録申込書に記入し、入会を申し込みます。
- ③ 写真を撮ってもらい、登録証をつくります。

★登録の申込・お問い合わせ

山形村社会福祉協議会

山形村ボランティアセンター

☎97-1165 「コミュニティハウス建部の里」内

受付時間 月～金/8:30～17:30



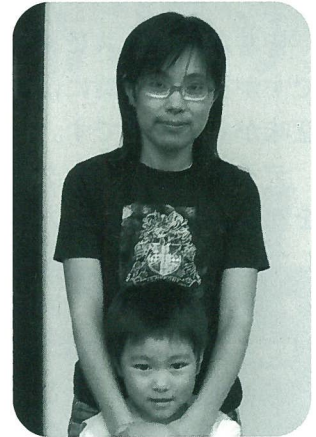
寄稿

あなたのご支援が必要です

—ファミリーサポートやまがた—

「ファミリーサポート」をご存じですか。育児など、家庭内の仕事を支援してほしい人と支援できる人がそれぞれ登録して、助け合うシステムです。山形村でも5月からスタートし、現在のところ登録者数32名、5月・6月の2ヶ月間で19件の活動をしてきました。

山形村のファミリーサポートの独自点は、ボランティアグループ「ファミリーサポートやまがた」が運営しているということです。このことは、ほかにはあまりない大きな特徴で、一人ひとりのニーズに合った、より柔軟な対応を目指すために大きな利点といえます。



ファミリーサポートやまがた 代表

櫻井京子

私たちの活動は次のような考え方に基づいています。

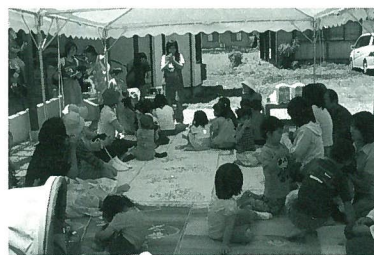
- ①地域ぐるみで子どもの育ちを支えあう。
- ②親が心のゆとりを持つための支援である。
- ③お互い無理をしないボランティア活動である。
- ④子どもの預かりの理由は問わない。
- ⑤子どもが主役であり、かかわる大人はみな対等な関係である。
- ⑥誠意と誠実さをもったの支えあいである。
- ⑦必要な支援を必要なときに必要な人に。



◀交流会のようす
(コミュニティハウス
建部の里にて)



今の時代、生活はとても便利に楽になりましたが、一方で地域のつながりが薄く、育児の負担感は増えています。特に、母親一人の肩にすべてがかかっているような育児は、親にとっても子どもにとっても問題です。子育てを通じて、人とつながっていくことこそが「ファミリーサポート」



の一番の願いでもあります。実際、活動の拠点となっている「建部の里」では、施設利用のおじいちゃんおばあちゃん方とちびっこたちが、ごく自然にふれあう姿が見られるようになってきました。核家族の私は、そんな様子が嬉しくてたまりません。

社会には、赤ちゃんからお年寄りまで、いろいろな人がいて当たり前。様々な年代の人のなかで様々な価値観に触れながら、子どもたちは豊かにまっとうに育ってほしいと願います。

まだ始まったばかりの「ファミリーサポートやまがた」です。一つ一つ試行錯誤しながら活動中です。困っている人に確実に手が届くような支援活動を目指していますが、そのためにはもっと多くの協力会員（支援できる人）が必要です。子育ての経験を生かしてみませんか。今後とも村民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

施設紹介

デイサービスセンターいちいの里が変わりました！

—より良いホスピタリティ・サービスをめざして—

皆さんは「ホスピタリティ」という言葉をご存じですか。この言葉には「好意」とか「誠意」という意味があるそうです。

デイサービスセンターいちいの里では、サービスを利用してくださる方が、日々のサービスに満足をしていただけるよう、快適な生活環境の創造に努めるとともに、職員一同、誠意をもってサービス提供ができるよう、心がけています。

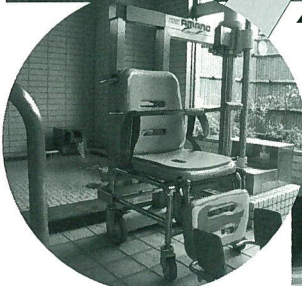
本年度の取り組みとして、より楽しく過ごしていただけるように生活環境を整えました。広い館内ですが、それぞれの場所でカラオケや映画鑑賞、レクリエーション、スポーツ等を楽しむことが可能になりました。自慢のビリヤード台もあり、ジャズを聴き、コーヒーを飲みながら参加していただくことができます。最近、利用者の方々からは「まさかこの年になってビリヤードを習うことになるとは」「昔、ジャズバーに行ったことを思い出した」なんていう会話も聴かれるようになりました。



◀ 談話コーナー



▲いちいの里 自慢の一般浴室



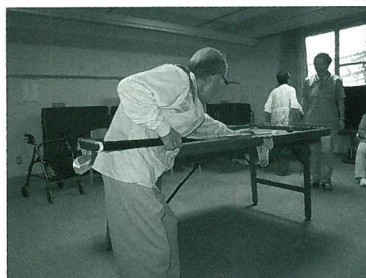
▲歩行に不安のある方にも安心です



もう一つ、自慢できるサービスとして「お風呂」があり、皆さんから好評をいただいております。好きな時間にゆっくりと入浴していただくことができます。足の痛い方、疲れてしまう方は、椅子に腰掛けたまま入浴できる設備も整っていますので、身体に負担なく入浴ができます。

私たちは、ホスピタリティと呼べる環境づくりの一環として、常に「相手を尊重し、大切にするという姿勢」をもって、来所される方に満足していただくよう努めています。館内すべての場所ですべての方に幸せな気持ちを体感していただけるよう頑張ります。

ぜひ一度お越しください。



◀◀ ビリヤードで健康づくり



まほろば (社協広報/第37号) 平成19年7月27日発行

●発行所 社会福祉法人 **山形村社会福祉協議会** (山形村保健福祉センター内)

〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村4520番地の1 ☎0263 (97) 2102 FAX0263 (97) 2108



*社協広報「まほろば」は、皆さんから寄附していただいた共同募金配分金を財源として発行しています。



この印刷物は大豆油インクおよび古紙配合率100%再生紙を使用しています。